

歴史上有名な『本能寺の変』の場所

織田信長が明智光秀に襲われ自害・焼失した本能寺は現在地の寺町御池ではなく、1582年（天正10年）ごろは堀川四条の近くにあり、寺域は東西150メートル、南北300メートルの広大な敷地でした。

本能寺の変後、この地に三男信孝が父信長の廟を建てたのですが、豊臣秀吉の区画整理により、現在地に移築再建された。現在の本能小学校は寺跡の中心で、石碑は本能寺自治会館前にたっており、同じ敷地に京都市立堀川高校と本能寺デイサービスセンターが併設してたっています。

応永22年（1415年）日隆上人が油小路高辻の地に本能寺を創立したが、後に破壊させたので、永享5年（1433年）に六角大宮に寺地を移して本能寺と改称された。

天文16、7年（1547、8年）頃、第八世日承によって西洞院と小川との間の四条坊門（今の蛸薬師）の北の地に再興された。当時は広大な寺域を占め、織田信長の仮宿所となったが、天正10年1582年6月2日に信長を攻めた明智光秀の兵火にあい、一山の堂塔をうしなった。

後に信孝が父信長の廟を建てたために、本能寺は再びこの地に復興を見ることになったが、豊臣秀吉の区画整理により、1592年に東京極（今の寺町）の三条坊門（今の御池）南の地に移された。1788年天明大火で焼失。1840年蛤御門の変にて焼失。1928年現在の本堂再建。

信長は本能寺を仮定宿とした理由は、「1. 寺の周辺は堀と塀がしっかり備えられていた。

2. 種子島に本能寺の末寺があり、鉄砲の入手に大きな力となった。」事といわれている。

①本能寺 本堂



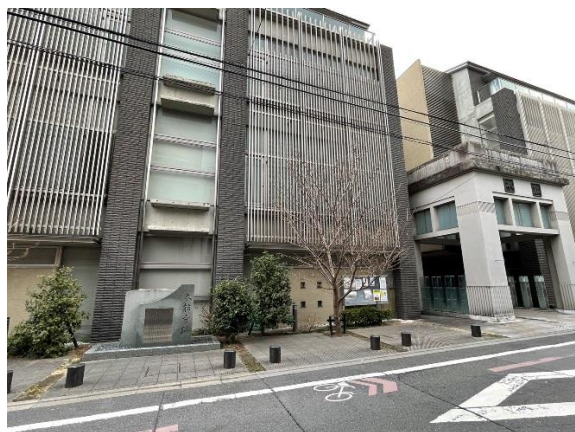
②本能寺 信長公の供養塔



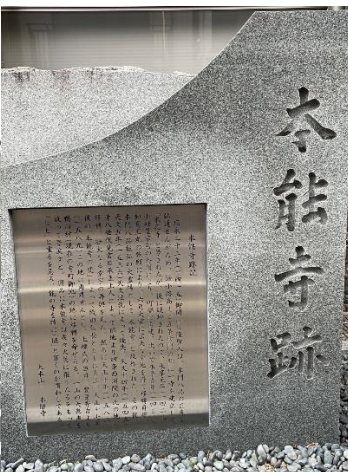
③本能寺跡



④本能寺跡界限



⑤跡の石碑



⑥跡の立て札



(記：吉藤会員)